

Check

妥協をせずに、真摯に向き合う

「開発途上国の人々に本当に質の高いサービスを提供する」——。(株)JINはこうした志を持ったコンサルタントたちが集まり、2011年に設立された企業だ。そして、わずか5年間で、南スーダン、ウガンダ、キルギスで業務実施契約を締結し、複数の国際機関がかかわる難易度の高い案件でも、その存在感を示してきた。また、最近では、中小企業海外展開支援事業をはじめ、東日本大震災における今後の復興事業への取り組みを始めるなど、活動の幅は広がっている。

JINの特長は、途上国に対して常に真摯に向き合う姿勢にある。例えば、通常のプロジェクトでは、契約時に予算や期間がほとんど決まってしまうのだが、途上国の人々にとって本当に必要であると判断すれば、自社負担でサービスを追加することを惜しまない。目先の利益にばかりこだわらないという同社の社風は特筆すべきである。

そして、採用活動にあたっては、応募者の経歴以上に、その人が持つ根本的な価値観を重視している。「開発途上国のために何をやりたいのか。そして、今の自分には何ができて、何が足りないのか」ということを真剣に考え、積極的に挑戦することができる人材を随時求めている。



company data

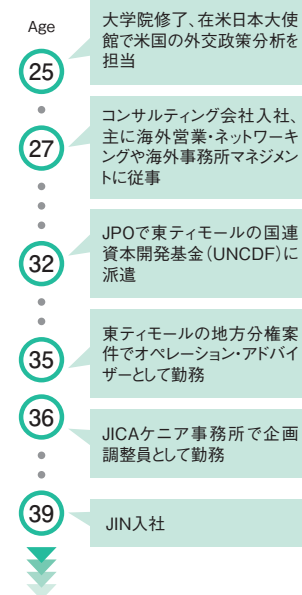
株式会社JIN
JIN Corporation
〒330-0802
さいたま市大宮区宮町2-10 シンティ大宮ビル3F-B
設立：2011年2月 資本金：1,500万円
従業員数：14人
代表者：代表取締役 大野康雄
事業分野：農業・農村開発、保健衛生、環境・社会配慮、評価分析、人材育成、中小企業支援など

recruitment

新卒採用：なし 中途採用：あり
募集職種：開発コンサルタント
募集人数：通年募集(募集時HPに掲載)

TEL：048-650-0400 FAX：048-650-0401
URL：http://www.jincorp.jp/

Career Path



実現したいと思う提案の価値を伝えられれば、全力で支援してくれるところに魅力を感じました。開発途上国は生活環境が厳しい場合が多く、ひとりで動いていて

も、自分だけで解決できる問題ばかりではありません。会社や周囲の助言を受けながら研さんを積み、自分ができることにひとつずつ取り組みたいと思います。

JIN



南スーダン案件のメンバーと
(後列右が金子さん)



事業部

金子 和代さん

Kaneko Kazuyo

幅広い視点で課題にアプローチ

大学在学中、1995年に北京で開かれた第4回世界女性会議にオブザーバー参加したことで途上国問題に関心をもち、オランダの大学院に留学しました。社会人経験を経て入学する学生が多く、議論も実務経験に基づいており、指導教官だけでなくクラスメイトからも刺激を受けました。修了後は在米日本大使館の専門調査員として日本を外から眺め、世界の問題に幅広い視点からアプローチすることを覚えました。帰国後、開発コンサルティング会社でプロポーザル作成や調査研究などに従事するとともに、米国や南アフリカを拠点に海外営業やネットワークキングを担当し、ケニア事務所の開設に携わりました。コンサルタントを裏で支える立場として、会社やコンサルタントの強みを把握し、相手国のニーズを踏まえた提案を心掛けました。また、海外でオフィスを立ち上げる過程では、現地の法律や慣習はもちろん、

書類が何日も放置されたり、個人で対応が変わったりするなど、予想外の壁にぶつかりながらも根気強く作業を続けるのは、やりがいがありました。その後、外務省のJPO派遣制度で東ティモールの国連資本開発基金(UNCDF)に派遣され、地方分権の制度構築とマイクロファイナンスのプロジェクト監理を担当し、続けて地方分権案件のオペレーション・アドバイザーとして勤務しました。任期満了後、国際協力機構(JICA)ケニア事務所の企画調整員として再びアフリカへ。民間セクター開発の問題解決にあたって、JICAが持つさまざまな支援スキームや民間企業の技術・経験をマッチングさせる工夫は、パズルを組むような面白さがあり大変勉強になりました。今の仕事を選んだのは、信頼できる仲間とODA・非ODAに係る国際協力を続けたいと考えた結果です。この会社は、自分が